奈良工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	英文法Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0028	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	機械工学科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	アトラス総合英語 English Grammar Explorer in 36 Lessons (桐原書店)		
担当教員	後藤 朗子		

到達目標

英語運用能力の素地を養い、特に英語の2技能（読み・書き）の確かな習得を目指す。文法を単元別に学習することにより、各単元の知識を深め、将来必要とされる正確な文法分析力、英語表現力の育成と定着を図る。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	基礎的な文法事項や構文を理解し、正しく運用することができる。	基礎的な文法事項や構文を理解し、おおむね運用することができる。	基礎的な文法事項や構文を理解し、正しく運用することができない。
評価項目2	身近な事柄について、既習の文法を用いて、正しく表現することができる。	身近な事柄について、既習の文法を用いて、おおむね表現することができる。	身近な事柄について、既習の文法を用いて、正しく表現することができない。
評価項目3	英語表現に必要な語彙の意味を理解し、英作文で正しく用いることができる。	英語表現に必要な語彙の意味を理解し、英作文でおおむね用いることができる。	英語表現に必要な語彙の意味を理解し、英作文でただしく用いることができない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程（本科１～５年）学習教育目標 （３）

教育方法等

概要	単元別に文法事項を学習していく。学習内容における英語文法力の定着を促すために、単元ごとに小テストを行うようにする。教科書を中心に授業を進め、各自が復習を行い、問題を解く速度を上げていけるようにする。
授業の進め方・方法	学習単元を徹底理解するためには、予習復習は欠くことができない。新しい単元を学習する際には、必ず各自が予習を行い、文法理解の妨げにならないよう未習の単語などは調べたうえで授業に臨むこととする。授業中は、各自板書をノートに書き写し、復習に役立てるようにする。
注意点	欠席による小テストの未受験や課題未提出については、公欠またはそれに準ずる欠席に限り対応する。事前学習として、教科書を読み、わからない語句の意味調べをしておく。語句がわからないことにより、文法学習が妨げられないようにする。事後展開学習として、授業中に作成したノートを参照しながら、練習問題を解き、理解を深めること。

学修単位の履修上の注意

本授業は学修単位科目に該当しない。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	序章　文の種類	授業の説明、教材の提示。 肯定文と否定文・疑問文・命令文・感嘆文などを理解し、それらを用いて表現することができる
		2週	第1章　時制（1）	現在形・現在進行形・過去形・過去進行形を理解し、それらを用いて表現することができる
		3週	第2章　時制（2）	未来を表す形・未来を表すその他の形を理解し、それらを用いて表現することができる
		4週	第3章　完了形（1）	現在完了形・現在完了進行形・現在完了形と過去形の使い分けを理解し、それらを用いて表現することができる
		5週	第4章　完了形（2）	過去完了形・過去完了進行形・未来完了形を理解し、それらを用いて表現することができる
		6週	第8章　態（1）	受動態の基本的な用法・受動態の様々な形を理解し、それらを用いて表現することができる
		7週	第9章　態（2）	SVOOの文の受動態・SVOCの文の受動態・注意すべき受動態を理解し、それらを用いて表現することができる
		8週	第10章　不定詞（1）	名詞的用法・形容詞的用法を理解し、それらを用いて表現することができる
	2ndQ	9週	第11章　不定詞（2）	副詞的用法・不定詞の意味上の主語と否定語を理解し、それらを用いて表現することができる
		10週	第12章　不定詞（3）	seem型の動詞・不定詞の様々な形・原形不定詞を理解し、それらを用いて表現することができる
		11週	第13章　不定詞（4）	不定詞を用いた様々な表現を理解し、それらを用いて表現することができる
		12週	第14章　動名詞（1）	動名詞のはたらき・〈V+動名詞〉と〈V+不定詞〉を理解し、それらを用いて表現することができる
		13週	第15章　動名詞（2）	動名詞の意味上の主語・動名詞の否定形・動名詞の様々な形。動名詞を含む慣用表現を理解し、それらを用いて表現することができる
		14週	まとめ・総復習	これまでの学習内容を復習する
		15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる
		16週	試験返却・解答・復習	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する

後期	3rdQ	1週	第16章　分詞（1）	名詞を修飾する分詞（限定用法）・補語のはたらきをする分詞（叙述用法）を理解し、それらを用いて表現することができる
		2週	第17章　分詞（2）	現在分詞で始まる分詞構文・分詞構文の様々な形を理解し、それらを用いて表現することができる
		3週	第18章　分詞（3）	独立分詞構文・付帯状況を表すwith・現在分詞を使った様々な表現を理解し、それらを用いて表現することができる
		4週	第19章　関係詞（1）	主格の関係代名詞・目的格の関係代名詞・所有格の関係代名詞・前置詞＋関係代名詞を理解し、それらを用いて表現することができる
		5週	第20章　関係詞（2）	関係副詞・関係詞の継続用法を理解し、それらを用いて表現することができる
		6週	第21章　関係詞（3）	関係代名詞what・複合関係詞を理解し、それらを用いて表現することができる
		7週	まとめ・総復習	これまでの学習内容を復習する
		8週	第25章　仮定法（1）	仮定法過去・仮定法過去完了・未来のことを表す仮定法を理解し、それらを用いて表現することができる
	4thQ	9週	第26章　仮定法（2）	I wish+仮定法・as if+仮定法・仮定法を用いた慣用表現・ifを使わずに「もしも」の意味を表す仮定法を理解し、それらを用いて表現することができる
		10週	第27章　動詞と文型（1）	自動詞と他動詞・第1文型で使う動詞・第2文型で使う動詞を理解し、それらを用いて表現することができる
		11週	第28章　動詞と文型（2）	第3文型で使う動詞・第4文型で使う動詞・第5文型で使う動詞を理解し、それらを用いて表現することができる
		12週	第33章　接続詞	等位接続詞・従属接続詞（名詞節）を理解し、それらを用いて表現することができる
		13週	第33章　接続詞	従属接続詞（副詞節）・接続詞を用いたその他の表現を理解し、それらを用いて表現することができる
		14週	まとめ・総復習	これまでの学習内容を復習する
		15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる
		16週	試験返却・解答・復習	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	

				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	小テスト	課題の完成度	合計
総合評価割合	60	20	20	100
基礎的能力	60	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0